

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：33908

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13290

研究課題名(和文)パレスチナにおけるユダヤ人入植運動の構造的基盤の解明

研究課題名(英文) Investigation of the Structural Basis of the Jewish Colonization Movement in Palestine

研究代表者

今野 泰三 (IMANO, TAIZO)

中京大学・教養教育研究院・准教授

研究者番号：90647835

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、占領地での宗教的シオニストの入植運動の権力基盤を、1967年戦争以前からの歴史的連続性の観点から明らかにすることにあった。本研究を通じ、次の3点を明らかにした。

第1に、宗教的シオニストの組織化において、文化的シオニズムがアンチテーゼとして重要な意味を持ったこと。第2に、宗教的シオニズムは確固たるイデオロギー的支柱を持った組織・共同体ではなく、状況対応性と多元性を特徴としてきたこと。第3に、宗教的シオニストの権力基盤は、イスラエル国家の入植政策と安全保障政策の中で強化されてきたこと。

これらの研究成果は、学会で発表する(計5回)とともに、単著1本と査読論文1本として公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、第1に、1967年戦争以降の占領地に限定された問題として扱われることが多いユダヤ人入植地の問題を、1967年戦争以前のシオニズム運動内の文化戦争と権力闘争、パレスチナの社会経済構造、英国の植民地経営戦略、イスラエルの入植・開発政策等と関連付けて考察してきた点にある。第2の意義は、上記の観点から考察を進め、宗教的シオニズムが状況対応的・多元的性格を持ち、ヨーロッパとパレスチナの各地域の文脈に強く規定されてきたことを明らかにした点にある。このように本研究は、パレスチナ問題との関連で注目されてきた宗教的シオニストの権力基盤の歴史的形成過程に関する基礎研究として高い意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the power base and its historical roots of the religious Zionist settler movement in the occupied territories with a special attention to the period before the 1967 war. This research revealed the following three points.

Firstly, in the organizing process of religious Zionists, cultural Zionism had a significant meaning as its anti thesis. Secondly, religious Zionism has not been a coherent organization or a sub-community with a single and firm ideological pillar, but rather has been characterized by the reactiveness and multiplicity. Third, the power base of religious Zionists was formed and strengthened in the context of colonialism and security policies of Israeli state.

This research outcomes were presented in the conferences 5 times and resulted in the publication of one academic article in the peer-review journal and one book.

研究分野：中東地域研究、政治地理学、平和学、パレスチナ/イスラエル研究、ナショナリズム研究、社会経済史研究

キーワード：宗教的シオニズム グッシュ・エムニーム 入植地問題 パレスチナ/イスラエル ハ・ミズラヒ ハ・ボエル・ハ・ミズラヒ パレスチナ問題 ユダヤ教

1. 研究開始当初の背景

1967年戦争以降、イスラエルはヨルダン川西岸地区(以下「西岸」)等を占領し、ユダヤ人入植地の建設を続けてきた。その原因に関して、先行研究の多くは、1967年戦争を境としてイスラエルで急進的右派が台頭したことを強調する。他方で、1967年以降の占領政策と入植地建設を、それ以前のシオニズム運動並びにイスラエル国家による入植政策・安全保障政策、及び、先住のパレスチナ人を排除する政策と関連付けて考察されることは少ない。同様に、メシア主義を掲げて西岸での入植を先導してきた運動グーシュ・エムニームに関する研究の多くも、1967年以前にイスラエル領内において宗教的シオニスト(民族宗教派とも呼ばれる)の入植運動が確立した政治的地位や経済的基盤と関連づけて考察することがない。

他方、1967年以前に宗教的シオニストが建設した入植地に関する研究は、入植地を「社会主義とユダヤ教を融合した村落」として理想化したものが多い。そのため、シオニズム運動とイスラエル国家がアラブ人農民を排除するために宗教的シオニストの入植運動を支援し、それら入植地の工業化と近代化を政策上の優先事項としていた点が看過されてきた。そのため、そうした政策がパレスチナ/イスラエルに階級構造を定着させ、ヨーロッパ出身の宗教的シオニストたちをその階層の上位に位置させたことで、宗教的シオニストの権力基盤を強化し、グーシュ・エムニーム台頭を可能としていった過程も十分に検討されてこなかった。

2. 研究の目的

本研究では、1967年戦争から現在まで続く西岸等でのユダヤ人入植地建設の構造的背景を、1967年戦争以前からの歴史的継続性を重視する立場から考察することを目的とした。特に、宗教的シオニストのユダヤ人たちが、シオニズム運動とイスラエル国家の入植政策、国土開発政策、安全保障政策において果たしてきた役割と、その過程で確立した権力基盤と経済的基盤の内実を明らかにし、その基盤が1967年以降の占領地での入植地建設を巡る政治過程をいかに枠づけてきたかを解明することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、シオニズム機構の前進組織ヒバット・ツィヨンが結成された1884年から、オスロ暫定自治合意が締結された1993年までの期間を考察対象とした。一次資料の調査と現地での聞き取り調査を用い、1年目に、宗教的シオニストの入植運動結成の経緯とそれを条件づけた要因について考察し、2年目に、イスラエル建国以降の宗教的シオニストの権力基盤形成の過程、及び、難民となったパレスチナ人の状況を考察し、3年目に、1967年戦争以降のイスラエル政府の入植政策に対する宗教的シオニストの関与、及び、同派の組織的・経済的・思想的变化を考察する予定であった。

しかし、次の「研究成果」欄で詳しく述べるように、想定外の事情が重なったことにより、計画の一部が実現せず、研究計画の立て直しと研究の最終目標の変更を余儀なくされた。

4. 研究成果

1年目の考察対象については、予定通り研究を実施し、主に以下の2点を明らかにした。

第1に、宗教的シオニストが組織化された過程とその政治的・社会的背景について、シオニズム運動内の「民主派」に思想的基盤を与えたアハド・ハアムの文化的シオニズムの思想が、シオニズム運動の宗教派に対し、独自の組織を結成していく動機を与えていたということを明らかにした。そして、宗教的シオニストの思想的・組織的起源とその特徴を明らかにするためには、それ自体の指導者達の思想だけでなく、アハド・ハアムの思想をも正確に把握していく必要があることを明らかにした。

第2に、ハ・ミズラヒとハ・ポエル・ハ・ミズラヒという2つの宗教的シオニストの組織が結成された経緯とそれら組織の成員構成を考察し、宗教的シオニストの組織が一般的に想定されているような一元的な組織ではなく、当初から多元的・状況対応的性格を持っていたことを明らかにした。特に、ハ・ミズラヒが、パレスチナの都市部に暮らす古参のユダヤ人移民やラビたちで構成されていたため、パレスチナに新たに移住してきた宗教的無産移民労働者のニーズに対応できず、農業入植地の建設や雇用創出にも関心を持たなかったことが、ハ・ポエル・ハ・ミズラヒという労働組合・入植運動・互助組織の結成につながったことを明らかにした。そして、この宗教的シオニズムの多元的・状況対応的性格が、その後の宗教的シオニストの権力基盤・経済的基盤の構築にいかなる影響を与えたかを明らかにすることが重要な研究課題であることを明らかにした。

以上の研究成果は、パレスチナ/イスラエル研究会や日本中東学会で発表するとともに、査読論文「宗教的シオニズムの構造的基盤に関する歴史的考察 ハ・ミズラヒとハ・ポエル・ハ・ミズラヒの多元的・状況対応的性格」として刊行した。

また、2年目と3年目の考察対象については、計画の遅れが生じたが、以下のことを明らかにすることができた。

第1に、社会主義シオニストを主体とするイスラエル政府が1967年戦争直後から、占領地の扱いについて「決定しないことを決定」する一方、活動的メシア主義を掲げる宗教的シオニストによる入植活動を放置または推進することで、占領地に対する実効支配を強め、パレスチナ人国家の樹立を阻止する手段としてきたことを明らかにした。

第2に、1977年に政権を取ったリクード政権の下、占領地に建設された宗教的シオニストの入植地が正式に承認され、国家安全保障政策の一部へと編入されていったことで、宗教的シオニストの権力基盤が占領地において強化されていったことを明らかにした。

これらの研究成果は、単著『ナショナリズムの空間：イスラエルにおける死者の記念と表象』の第3章「1967年戦争以降のイスラエルの占領・入植政策」と第4章「民族宗教派のイデオロギーと死者の記念と表象」の一部として刊行した。

しかし、1年目の計画で予定していた、1948年以前のオスマン帝国及び英国委任統治の時代におけるベイト・シェアン（ベイサーン）地方の社会経済構造を明らかにし、そこに宗教的シオニストがいかなる制約と戦略の下で入植し、それによって当該地域のパレスチナ人住民がいかなる影響を受けたのかという点までは明らかにすることができなかった。また、ベイト・シェアン（ベイサーン）地方に入植した宗教的シオニストたちが、1967年戦争直後、どのような経緯と理由で西岸での入植地建設に参加し、それら入植者たちが1974年に結成されたグッシュ・エムニームといかなる関係を持ったのかという点についても明らかにすることができなかった。

計画の遅れの原因は、第1に、宗教的シオニズムの起源と特徴を明らかにする上でアハド・ハアムの思想を考察することが必要であることが明らかになったため、その著書のヘブライ語原典からの翻訳に時間を費やしたためである。第2に、2020年1月からの新型コロナウイルスの急速な感染拡大により、計画していた現地調査を予定通りに実施することができなかったためである。よって、これらは今後の研究課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 今野泰三	4. 巻 34
2. 論文標題 宗教的シオニズムの構造的基盤に関する歴史的考察 ハ・ミズラヒとハ・ポエル・ハ・ミズラヒの多元的・状況対応的性格	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究	6. 最初と最後の頁 16-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 宗教的シオニズムの構造的基盤に関する歴史的考察 ハ・ミズラヒとハ・ポエル・ハ・ミズラヒという2つの組織
3. 学会等名 2019年度第5回パレスチナ／イスラエル研究会（NIHU地域研究推進事業「現代中東地域研究」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所拠点主催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 「平和の地理学」とは何かーパレスチナ／イスラエルの事例から「平和のための」研究について考える
3. 学会等名 人文地理学会政治地理学研究部会 第25回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 「天国は外の世界ではなく、自分自身の中にある パレスチナ・ウクライナ調査報告」
3. 学会等名 関西パレスチナ研究会 2018年度第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 「グリーンラインのイデオロギー」への批判としての「入植地問題」研究の展望
3. 学会等名 日本中東学会第33回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 「現代イスラエル」の境界はどこに引くべきかー「入植地問題」研究とグリーンラインのイデオロギー
3. 学会等名 日本ユダヤ学会 公開シンポジウム「現代イスラエルの課題」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 占領と入植地問題から見るパレスチナ・イスラエル紛争
3. 学会等名 神戸・ユダヤ文化研究会2017年度第2回文化講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Taizo IMANO
2. 発表標題 No Peace without Justice - How to achieve the Palestinian sovereignty and self-determination through health?
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会2017（第58回日本熱帯医学会大会・第32回日本国際保健医療学会学術大会・第21回日本渡航医学会学術集会 合同大会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 宗教的シオニズムの構造的基盤－相対的・状況対応的・多元的性格の分析－
3. 学会等名 日本中東学会第36回年次大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 『現代地政学事典』編集委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 現代地政学事典	

1. 著者名 今野泰三	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 294
3. 書名 ナショナリズムの空間：イスラエルにおける死者の記念と表象	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>中京大学 研究者総覧 https://kenkyu-db.chukyo-u.ac.jp/profile/ja.fb8a7e9facaee47d.html</p> <p>Research Map https://researchmap.jp/taizo.imano</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------